

普及だより いいわき No.140

平成 25 年 3 月 10 日

編集・発行：福島県いわき農林事務所農業振興普及部

地域農業推進課 (0246)24-6162 経営支援課 24-6161

園芸産地振興担当 (0246)24-6162 農業振興課 24-6160 FAX 24-6196

E-mail : shinkouhukyu.af07@pref.fukushima.lg.jp



平成 25 年産からの安全ないわき産米づくりのポイント

いわき市の平成24年産玄米放射性物質検査(全量・全袋検査)結果をみると、平成25年3月21日現在で検査点数が517, 167点で、その内測定下限値未満が99.7%を占め、基準値100Bq/kgを超えたものは1点のみでした。

平成25年産米の生産に向けて放射性物質吸収抑制対策を実施しましょう。

【玄米の放射性セシウム濃度が高まる要因と吸収抑制対策】

要因1 用水から流入する

対策1 「灌漑用水から放射性物質を入れません」

※山あいや森林と隣接する水田、沢水等を用水にしている水田では濁水や土砂がほ場に流入しないよう特に注意が必要です。

要因2 土壌や栽培過程から吸収する

対策2 「カリの基肥上乗せ施用&カリの追肥で放射性セシウムの吸収を抑制します」

基肥のみの場合：塩化カリ 20kg/10a

追肥をする場合：基肥 塩化カリ10kg/10a

追肥 中干し終了前に 塩化カリ10kg/10a

※交換性カリウム濃度が低い水田では玄米の放射性セシウム濃度が高まるため注意が必要です。

対策3 「中干しの徹底で放射性セシウム溶出を未然に防止します」

対策4 「穂肥は幼穂形成期の生育状況を確認し倒伏しないよう適切に行います」

対策5 「土づくりを励行しワラすき込み・堆肥施用でカリウムの補給します」

要因3 付着・混入する

対策6 「収穫・乾燥・調製時に籾やワラに土が付着しないよう丁寧に行います」

※米袋の中に土、ほこり・籾がら、糠・糠玉、虫の死骸等が混入

すると玄米が放射性セシウムに汚染されるので注意が必要です。

※原発事故後、初めて使う機械は、特に注意して清掃して下さい。

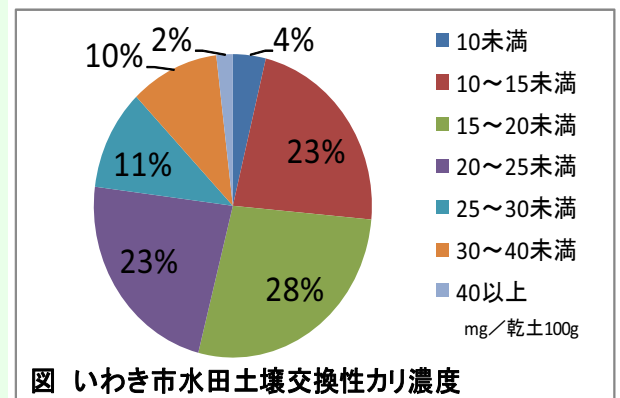


図 いわき市水田土壌交換性カリ濃度

※土壌中のカリは 25 mg/100g 以上が必要です。いわき農林事務所です市内水田土壌 261 点の交換性カリ濃度を分析したところ、77%のほ場でカリの施用が必要であるという結果になりました。

あなたの農産物は安全ですか？

生産工程管理(GAP)に取り組みましょう

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射性物質の拡散が大きく報じられており、農産物の安全性が強く問われるようになりました。

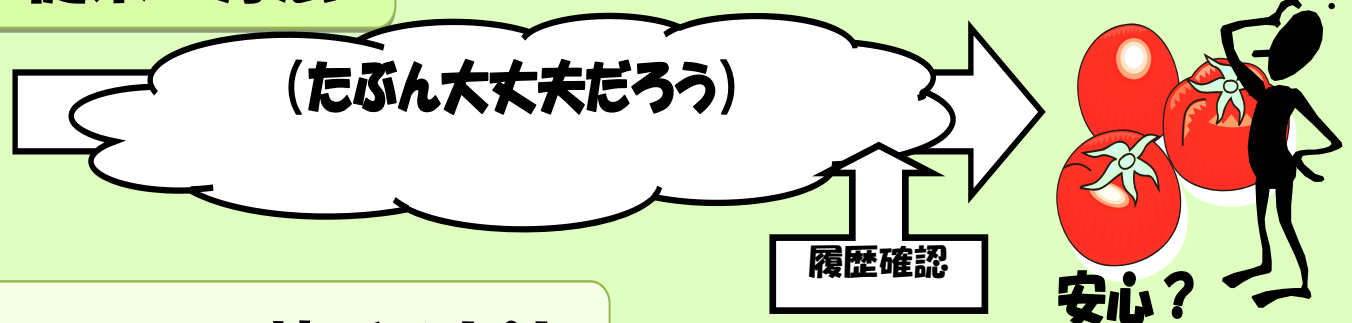
そこで消費者に安心して購入してもらうためにも、生産工程管理(GAP)に取り組み、安全な農産物を出荷しましょう。

生産工程管理(GAP)とは、あらかじめ農産物の安全性に悪い影響を及ぼす危害要因(異物混入、農薬残留、病原菌付着等)を考え、生産の過程でその都度チェックシートにそって確認し、出荷後は記録を基に改善点などの見直しを行うことです。

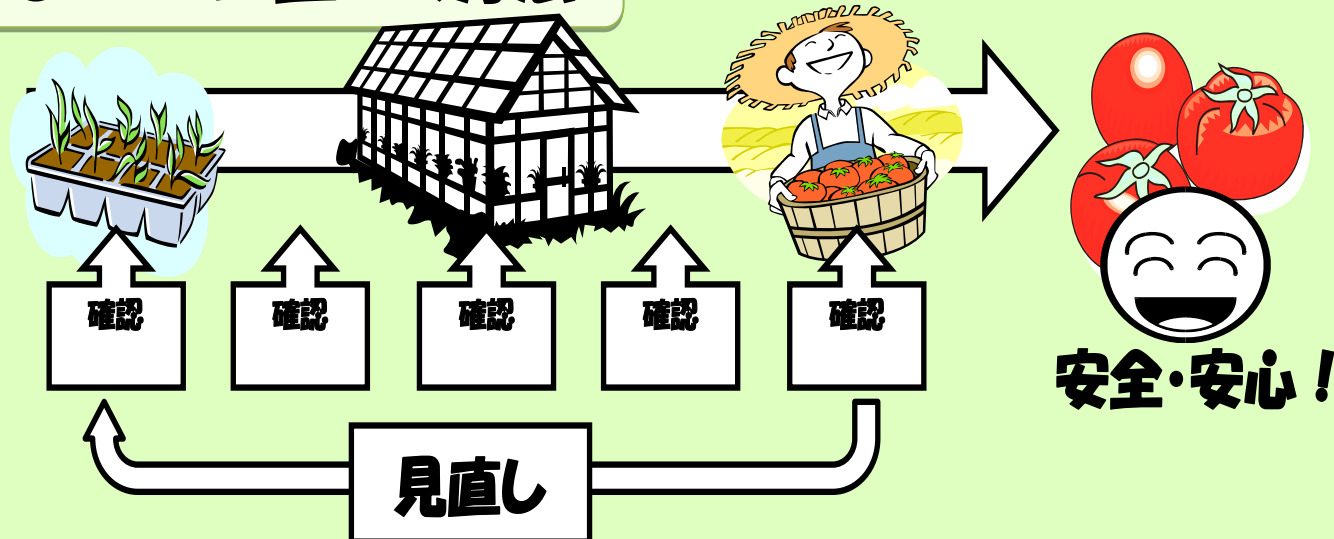
この作業は、農産物に付加価値を与えるものではありませんが、取組をPRすることで、消費者の安心感を得ることにつながります。

生産組織全体で、積極的に取り組んでみましょう。

従来の方法



◎GAPに基づく方法



チェック欄

- 栽培日誌、防除日誌に正しく記帳しましたか？
- 堆肥、肥料、農薬、資材購入伝票は、保管されていますか？
- 作業機械等は定期的な点検・整備を実施しましたか？
- 調整残さ(残りかす)は適正に処理していますか？
- 使用済のハウスビニール・農ポリ・肥料袋等は適正に処分していますか？ 等

牧草地の更新（除染）をいしましょう！

平成24年4月より牧草の暫定許容値が100Bq/kgに変更となり、牛に給与できるのは、牧草地の更新を行い、モニタリング検査で100Bq/kg以下になった牧草だけです。

平成24年秋に草地更新を行った牧草地については、5月頃から順次牧草のモニタリングを実施する予定ですので、もうしばらくお待ち下さい。

また、25年度牧草地の更新に、是非、取り組んで下さい。

なお、草地更新を実施した方で、まだ所属団体に報告していない場合は、いわき農林事務所までご連絡願います。



プラウ耕による耕耘の様子

平成24年度青年農業士新認定について

平成25年2月15日に石川町で開催された認定証交付式において、常磐白鳥町の小泉昌男氏が青年農業士に認定されました。

小泉氏は水稲経営を中心に、エコファーマーでもあり、米粉用米の栽培による6次化（米粉麺）の取組も行っています。これからもいわき市の大規模稲作生産の担い手として期待されています。



青年農業士認定式の様子

長野県農業士協会農業視察研修及び情報交換会について

2月14日（木）に長野県農業士協会に所属する18名の皆さんが、いわき市管内の草野城太郎氏（青年農業士）の水耕栽培による葉ネギ栽培と出荷調整作業を見学した後、県いわき合同庁舎において青年農業士2名と情報交換会を行いました。

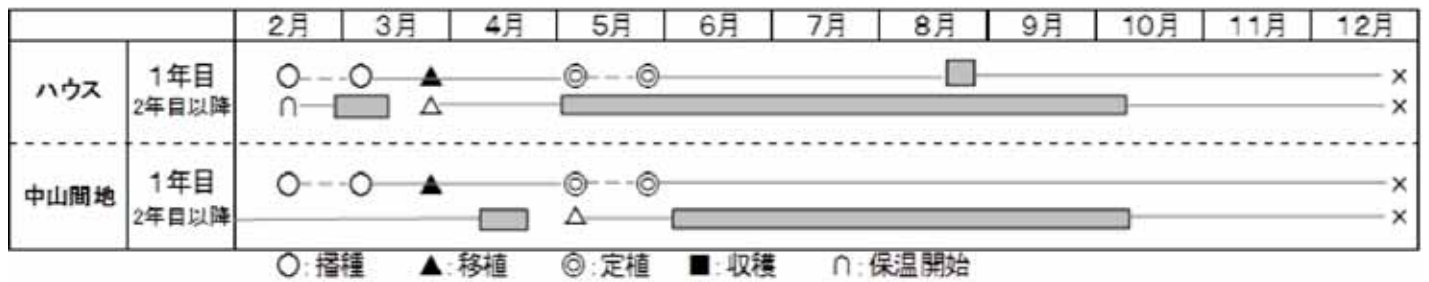
情報交換会では、長野県農業士協会から福島県青年農業士会へ義援金の贈呈があり、坂本和徳氏（県青年農業士会副会長）が代表して受け取りました。

長野県からは風評被害対策や災害時の留意点などについての質問が多く、それに対して、いわき市の青年農業士からは経営を震災前に復帰することが現在の活動の中心であり、震災直後は生活物資の不足が一番困ったということ、風評被害が続いているが、福島県の農産物は検査体制がしっかりしているから安心という声もあり、今後も放射性物質検査を続け、安全安心な農産物を届けて行きたいと発言がありました。



長野県農業士協会からの義援金贈呈の様子

アスパラガスを作っちゃおう！！



県内には会津を中心としたアスパラガスの産地が多くあります。いわき地域においても栽培が行われ、アスパラガスの多くは直売所で販売されており、地産地消による地域活性化にもつながっています。

いわきは、年間を通じて温暖な気候で、積雪も山間部を除いてほとんどないことから、県内の他産地に比べ、春先に早く収穫することが出来、また、収穫期間が長いという利点があります。

アスパラガスは、ウェルカムという品種が主流ですが、県のオリジナル品種である「ハルキタル」や「春まちグリーン」、「はるむらさきエフ」の作付も増えています。

加えて、平成24年から、いわき市三和地区で品種化を目標とした現地試験（福島交10号）も行われています。

いわき地域の気候を最大限に活用してアスパラガス栽培を始めてみませんか。

※お問い合わせはいわき農林事務所農業振興普及部まで

		アスパラガス (露地)	アスパラガス (ハウス)
粗収益	収量 (kg)	1,200	1,500
	単円/kg価 (円)	797	1,008
	粗収益	956,400	1,512,000
費用	生産費 (円)	185,086	671,932
	流通経費 (円)	186,852	274,710
	小計 (円)	371,938	946,642
収益性	所得 (円)	584,462	565,358
	所得率 (%)	61	37
備考	福島県アスパラガス栽培の手引きより (H22)		

表. アスパラガス栽培における経常収支

平成24年度ステップアップ講座 経営セミナー開催！！

本セミナーは、昨年度に引き続き、未だ続いている東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害等を乗り越え、農業者が現状に沿った営農活動を進めるために、税理士の木幡仁一先生による第1回「税制改正の内容と今後の動向」及び「キャッシュフローと経営分析」、第2回法人設立に向けての「資金管理・資金繰り」について講義を開催しました。

受講生の皆さんは熱心に聴講し、講義が終了した後も経営相談をお願いする方もおりました。



ステップアップ講座開催の様子